洋上アルプス

No.277　平成30年4月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

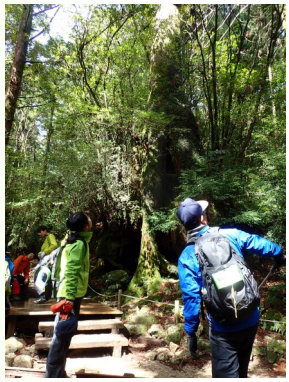
鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333

平成29年度（春期）インターンシップの受け入れ　（3月5～9日）

九州大学3年の本田あかりさんが、当センターにおいて1週間、農林水産省就業体験実習を行いました。

初日は当センターの概要等を説明した後、屋久島森林管理署や森林事務所（貯木土場）を見学し、屋久島における国有林野事業の現状や屋久杉土埋木について学習しました。

2日目からは森林パトロールも兼ねて著名屋久杉の樹勢等の現地確認、レクリエーションの森の植生調査等の現場業務と国有林への入林許可やグリーンサポートスタッフの巡視日誌のとりまとめなどの内務業務を体験しました。



三代杉樹勢等の確認

くくり罠の設置

最終日は、ヤクシカの現状について学習した後、現地でくくり罠による捕獲業務等を体験し、九州本土とのシカ駆除に対する考え方の違いや個体数管理の果たす役割の大きさを感じたようです。

実習全体をとおして、森林の機能の重要性とそれを保全することの大切さ、難しさを改めて実感し、今後、日本の成長産業として林業の経済性を追求しつつ、水源涵養や土砂災害の防止、多様な生態系の保全、リラクゼーションなどの観点からもバランスのとれた持続可能な森林づくりを目指していきたいとの感想を頂きました。今回の就業体験実習が今後に活かされることを期待します。

異業種のメンバーと意見交換　（3月2日）

ＪＳＴ（科学技術振興機構）の研修プログラムで知り合われた異業種のメンバーの方々が、森林･水･防災等をキーワードに屋久島における森林保全や森林資源等に関するヒアリングのため4名方が来所されました。

屋久島署から岩本次長、当センターから永山自然再生指導官、奥村生態系管理指導官及び三國技官の4名で意見交換を行いました。

意見交換のようす

内容は、屋久島における森林資源の概要をはじめ、ヤクスギ土埋木の生産･販売及びスギ人工林の現状や生態系管理、森林･林学及びドローンとＩＣＴの活用など多岐にわたり、予定時間をオーバーするなど活発な意見交換会となりました。メンバーの方々からも「知らない屋久島の現状等を把握できて大変中身のあるものでした」と感想をいただきました。

今後においても、来所依頼がある場合は積極的に受け止め、屋久島地域の発展に繋がるよう努めていくこととしています。

屋久杉土埋木の委託販売開催　（3月5日）

市売りの様子

鹿児島県木材銘木市場において銘木市が開かれ、屋久島署から本年度2回目の委託販売として屋久杉土埋木約50立方㍍を出品しました。

当日は、鹿児島県内外より各種銘木が出品され、全国から多くの買方者が参加する中、市売りが行われました。メインとして椪積み（はいづみ）されている屋久杉土埋木の競りが開始されると競り子の威勢の良い掛け声とともに、次々と競り落とされていきました。その結果、最高値は本年度の最高単価となる立方㍍当たり360万円の値がつくとともに、平均入札単価は立方㍍当たり約66万円で取引されました。

屋久島署では、屋久杉土埋木が貴重で限りある資源であるため、少しでも細く長く生産・販売が出来るように取り組むとともに、引き続き屋久島地スギの需要拡大にも関係機関と連携しながら取り組み収入確保に努めていく考えです。

平成30年度屋久島森林生態系保全センター業務計画

1　森林生態系保全業務

（1）職員と森林保護員（GSS）による世界自然遺産地域等の森林パトロール

（2）ヤクシカによる森林生態系への被害防止対策（有害鳥獣捕獲等）

2　調査業務

（1）生態系モニタリング調査（屋久島南部植生調査、高層湿原保全対策調査等）

（2）気象観測モニタリング調査（雨量観測10箇所、気温観測3箇所）

（3）外来種植物侵入状況調査（屋久島に侵入が確認されている樹木）

3　自然再生業務

（1）外来種の駆除対策（連絡会の開催）

（2）森林生態系・森林環境教育（小・中学校等と連携した森林教室、研修受入等）

4　その他

（1）広報誌「洋上アルプス」や年報の発行

（2）ホームページの充実

（3）地域との連携（各種会議等への出席）

屋久島の外来植物　＜モクマオウ＞

- （木麻黄）　モクマオウ科の常緑高木。
- オーストラリア原産　広葉樹。
- 用途：防風林、防潮林、樹皮は染料として利用される。
- 外観がマツに似ているため、オガサワラマツとも呼ばれるが、枝や葉、花などルーペで観察すると、マツとは程遠いものとすぐ分かる。
- マツの葉のように見えるのは枝で、葉状枝と呼ばれる。
- 砂地を好み乾地に適するが、湿地にも生育し得る。成長は比較的に早い。
- 屋久島では栗生海岸、長峰（空港近く）に見られる。

モクマオウの葉状枝

栗生海岸のモクマオウ

ヤクシマママコナの話（第1回）

――― ちょっとへんなママコナ ―――

長谷川匡弘　（大阪市立自然史博物館）

屋久島の高地部には、特殊な植物が分布しているのはよく知られています。それらの多くは、本土に分布している近縁な分類群と比べてとても小さくなる傾向があり、屋久島だけでしか見られないものも多く含みます。今回紹介するヤクシマママコナ（図1B）もそうした植物の一つと言えるでしょう。

図1A：シコクママコナ（和歌山県産）、B：ヤクシマママコナ．シコクママコナの変種とされている．

ヤクシマママコナは、屋久島の高地部、およそ1300～1400メートル以上に限って見られます。開花期は年によって多少ばらつきはありますが、８月中旬～９月中旬ごろまでの１か月間程度でしょうか。小花之江河の手前～花之江河、黒味岳周辺、黒味別れ～投石平、新高塚小屋を過ぎたあたりから平石の間、太忠岳山頂付近などで、特に多く見られます。かわいらしいピンクの花をつけて、場所によっては登山道沿いに多くの個体が群生しているので小さい植物の割にはよく目立ちます。夏休み後半に登山をされる方は、必ず目にしていると思います（気づかずにすぎてしまうかもしれませんが…）。ただ、宮之浦岳周辺のヤクシマダケ群落では、かなり個体数が少なくなるようです。

ママコナ属は日本では５種が分布しており、屋久島だけに分布しているヤクシマママコナは、シコクママコナ（図1A）の変種とされています。「変種」という言葉はあまり聞きなれないかもしれませんが、簡単に言うと、別種とするほど顕著な違いはないが、ちょっと違っている、ということです。

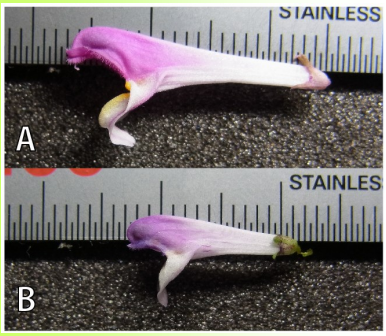


図2A：シコクママコナ（和歌山県産）、B：ヤクシマママコナ．ヤクシマママコナの花はシコクママコナの3分の2くらいの長さ．幅も小さい．

さて、ヤクシマママコナは、本土に広く分布しているシコクママコナと何がちょっと違うのでしょうか。まず、目立つのはやはり花の違いでしょう。ヤクシマママコナはシコクママコナと違って、全体的に花の大きさが小さく、特に花の長さが短いのです（図2）。他に、植物全体のサイズも小さく、一つ一つの花の下についている苞と呼ばれる部分も、シコクママコナとは形が違っています。

私の研究の一つは、ヤクシマママコナの花は、どうしてシコクママコナとこんなに違うのか、ということを明らかにすることです。2013年からヤクシマママコナの調査を続けて、もう5年にもなりますが、天候が安定する日が少ない屋久島高地部での調査はなかなか大変です。しかし、毎年少しずつ調査データを積み重ねることで、シコクママコナとは花に来る昆虫が全く違うことが分かってきました。ここに、花の形の謎を解くヒントはありそうですが、この話はまた次回にしたいと思います。（つづく）

屋久島の植物　ショウベンノキ（ミツバウツギ科）

四国・九州以南に分布する常緑小高木。屋久島では低地の林縁や林内にある。葉は対生し3出複葉、まれに羽状複葉。枝はひょろひょろと横に広がる。花期は4～5月、枝先に黄みがかった白い小さな花を多数つける。和名は、春先に枝を切ると多くの樹液が出てくることからといわれる。

屋久島生態系モニタリング

屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

１．目的

当該地域の調査は、平成13 年、18 年、23 年に実施しており、平成28 年度が4 回目の東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査となる。標高別の定点調査プロットにおいて、前回までの結果とその後の経年変化を把握し、比較検討しながら生態系の健全性や今後の保全のための課題検討等を行うことを目的としている。

２．調査内容

屋久島東部等地域(愛子岳東側斜面)の標高別定点調査プロット(標高200･400･600･800･1,000･1,200m)等において以下のとおり実施した。

(1)標高別定点調査プロット内の植生･毎木調査等

①階層構造調査、毎木･下層植生調査、高木性樹木の更新調査

②プロット周辺の出現植生及び群落配分図、群落横断図の作成調査

③鹿柵内外のヤクシカによる植生への被害状況調査

(2)標高別定点調査プロット周辺の衰退樹木等のモニタリング

・気象･病虫獣害･踏圧等の高木に対する質的影響の把握

(3)鹿柵内外の地表徘徊性昆虫類調査等

①鹿柵内外の地表徘徊性昆虫類調査

②鹿柵内外のリター層と表層土壌の状況把握

(4)調査結果の整理･分析及び考察

・経年変化の動態等の評価･考察

(調査結果は次回号へつづく)

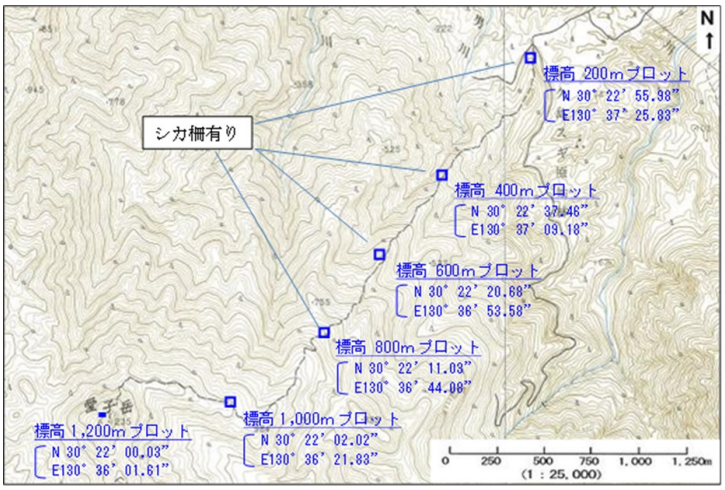


図　標高別定点調査プロット

巨樹･著名木　屋久杉

二代大杉

二代大杉は、約4mの切株の上に種子が落下して発芽生育した二代目の杉です。このようにして世代交替が行われることを切株更新といい、屋久島ではこのような杉がいたるところで見られます。まさに屋久島ならではの人と自然との営みが組み合わされた光景と言えます。

着生する木本類は、アオツリバナ、サクラツツジ、カクレミノ、サザンカ、ミヤマシキミ、ヤマグルマ等です。

二代目の大きな根が切株を覆うように成長していて、枝葉の勢いも旺盛です。

- 樹高：32.0㍍　　• 胸高周囲：4.4㍍
- 樹齢：不明　　• 標高：730㍍
- 場所：白谷雲水峡　奉行杉コース沿線